

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600244		
法人名	株式会社 藤惣		
事業所名	リフレッシュホーム 和みの家 めくもり館		
所在地	〒061-3210 石狩市花川南10条1丁目1-12		
自己評価作成日	平成25年3月6日	評価結果市町村受理日	平成25年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>▼併設に通所介護事業所があり、共同でのイベントや行事が毎月ある。またそのデイサービスに通う馴染みの人間関係も構築されている。</p> <p>▼地域んみ開かれたイベントを随時開催し、交流の場になっている。</p> <p>▼事業所として独自に行っている貸出農地にも地域との接点生まれ、交流の機会は年々広まっている。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr&amp;JigyosyoCd=0177600244-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr&amp;JigyosyoCd=0177600244-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25年 3月 26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、運営法人の所有する広い牧草地の一角に有り、三角屋根が印象的なオレンジ色の平屋建てとなっています。周辺は閑静な住宅地でありながら、クリニックや商業施設も点在しています。敷地内にはデイサービス温泉堂が隣接し、それぞれの機能を有効に活用しながら、毎年恒例の収穫祭を始め、多様の行事を合同で執り行い、利用者、職員は交流を図り、協力体制を築いています。人と地域と家族の「和」を理念に掲げ、収穫祭にはボランティアを始め地域住民が300人も集まり交流を深めています。広いリビングを活かし、大衆演劇公演やコンサート等のイベントにも家族や地域住民に参加頂く等、和みの家を中心に交流の輪が更に広がっています。職員はチームケアで連携を取り、きめ細かなサービス提供と共に、自立に向けて過剰介護にならない支援にも努めています。職員はターミナルケアを実践し利用者の看取りを経験した中で、利用者、家族の望む終末期を支援しています。職員は常に笑顔で利用者に接し、日々笑いのある暮らしを目指したケアサービスに取り組んでいます。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	行えている	人と地域と家族の「和」を大切にしたホーム独自の理念を作成しています。職員は毎月のカンファレンス時に、理念に添ったケアが実践される様に話し合い、意識づけを図っています。更に、ユニット事に毎月目標を掲げてケアに活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事に参加 施設イベントの周知などで交流もある	町内会行事の夏祭りや公園の清掃活動、地域社協主催のバザー等に積極的に参加しています。ホーム主催の収穫祭は恒例となり、地域住民の楽しみ事となっています。大正琴や大衆演劇公演に除雪のボランティアも受け入れ地域との絆を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座などの自活動を実施		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	広報の発行などを参考にしている	運営推進会議は定期的開催し、ホームの運営状況や行事案内、避難訓練、評価への取り組み状況等について話し合い、参加メンバーからは質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となっていますが、それを反映させる議事録には至っておりません。	最初に参加者の役職と名前の明記を望みます。参加者の発言について、どの立場の方からの質疑応答・提案なのか詳細に記載し、会議内容が活かされる議事録整備の取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な介護相談員の受け入れなど相互に取り組んでいる	行政とは、定期的な介護相談員の受け入れや利用者の入居に関する依頼等、困難事例の対応相談を受ける等、協力関係を築いています。グループホーム連絡会には包括支援センター職員も参加しており、情報の共有を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険回避のベッド柵や夜間以外の施錠禁止などに努めている	マニュアルが作成され、年1度の研修と毎月のカンファレンスにて、職員は身体拘束の弊害について話し合い、周知徹底を図っています。夜間は防犯上施錠していますが、日中はドアに鳴物を付け、優しく見守り、自由な暮らしを支援しています。ベット柵使用時は家族の同意を得て、利用者の安全に対応しケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、カンファレンスなどで周知している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いくつかの制度については説明をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分に行っているが契約はキーパーソンのみに行っているため全ての家族には行っていない		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事や業務に反映すべくアンケートを実施している	家族交流会や収穫祭等の行事参加時や毎月の支払を兼ねての来訪時には、話し易い雰囲気作りに努めています。緊急時には電話連絡を行い、手紙等でも報告しています。年1度、アンケートを実施して、運営に反映させています。季刊誌を発行し、利用者の暮らしぶりを伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の会議などで意見を聴取し反映させている	職員の意見や提案は、毎月のユニット会議や年1度の施設長との個人面談にて聞き取り、運営に反映させています。シフトの変更や休日の希望、研修受講に関する要望等にも配慮し、働きやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めて整備している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会に加え、外部研修への参加を促したりしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	石狩市グループホーム連絡会やスタッフ交流会に参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りヒアリングを行い家族からの情報収集も行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など出来る限り談話の機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期プラン作成という形で実施		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ある程度は信頼関係は築けているが、中々難しいのが現状		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密にとり、イベント参加や病院受診の付き添いなども依頼している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状はなかなか支援できていない	隣接のデイサービスに通っている知人の訪問を受ける機会があります。遠方の方に自筆で手紙を書いたり、代筆で様子を知らせる等、関係が途切れない支援に努めています。家族対応では、自宅訪問や外食、買い物と馴染みの場所へ出かける等、継続的な交流を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの役割を尊重しあえるように分担しながら調整し、お互いの存在がストレスにならないような配慮が難しい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	それまで担って頂いていたご家族の役割を継続してもらうことで関係性を維持出来ているご家族もいる(畑作業など)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人を尊重し、ご本人の意向に添えるよう日々努めている	フェイスシートを参考にし、家族の意向を把握しながら、午前と午後のお茶タイム等で関わりを持ち、利用者の言葉や行動、表情から希望や思いを汲み取り、その人らしく暮らせる様に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルを作成し、これまでの暮らしや生活歴の把握に努め日々の生活の中で活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に一日の生活の様子を記録し、日々の過ごし方の研究やスタッフ間の情報共有に活用している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例のカンファレンスなどで意見を集約している	職員は毎月のモニタリングを基に、カンファレンスにて話し合い、利用者の状況を確認し、最終的にホーム長と介護支援専門員とで検討し、介護計画を作成しています。定期的見直しは3ヵ月～6ヵ月とし、状況変化時は随時見直されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実行実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人を尊重し、その側面に対応できるよう日々努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携を持ちながら、地域側からの配慮も頂きつつ可能な限り支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	密接な信頼関係に日々努めている	協力医の往診は4週間に1度実施し、歯科医も要望により往診対応しています。看護職員による健康管理は、個々の身体状況を把握し適正に図られています。かかりつけ医への受診は家族対応ですが、受診経過の情報は個人特記ファイルに記載し、共有を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報、気づきを記録し実際に口頭で伝えている。看護職員不在時は電話で相談し適切な受診につなげるよう支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の折には情報交換・相談に努めている。また、一部病院ではあるが日頃より受け入れについて相談するなど、関係作りに努力している			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望しているが、早い段階からの話し合いはされていない。現在まで3例の終末期支援を経験しているが、チームでなんとか支援できた。	重度化や看取りに関する対応指針は明文化され、入居時に説明を行い、同意を得ています。既に3名の看取りを経験しており、主治医、看護師、介護職員、家族と連携し、支援に取り組んでいます。ターミナル研修も受講しており、チームケアの体制が整備されています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	完璧かと問われると、やっぱり不安はあるので、自己学習、研修、訓練を重ね実践力を身につけたい			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練を実施しているが、未経験のことなので、日頃からの話し合いやシュミレーション不安は残る	年2回、昼・夜を想定した避難訓練を実施しています。地域住民も3名参加頂きました。スプリンクラーを設置し、救急救命訓練も全職員が受けています。設備点検も年1度業者が行い、AEDも配備し、非常用の水と食料は準備しています。	火災に加え、あらゆる災害時（地震・風水害）を想定した避難訓練の実施を期待すると共に、避難訓練を重ねる毎に課題や疑問が抽出されるので、年間を通じた自主訓練の検討も期待します。また、備蓄品の充実を図る事も（薬品・トイレ・暖房器具等）期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を伺い、一人ひとり全体像を想像し人格を尊重するよう努力しているが、時に言葉遣い等に配慮が欠けたりすることがある	職員は、日常のケアサービスにおいて、トイレ誘導の声かけ等、利用者一人ひとりの状態に合わせながら、誇りやプライバシーを損ねない様に、十分配慮しています。個人情報の取り扱いにも注意を払っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方通行で決定してしまうことがある。希望の表出、自己決定の場面を作るよう支援が必要			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしや希望に添うように支援しているが、もっと対話の機会を持つなど心のゆとりが欲しい			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃より身だしなみには気を遣っている（整容や衣服の汚れなど）また、ご家族の希望でパーマをかけるなどお洒落ができる支援をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスなどを考慮し食事を提供し準備や片付け等の役割を分担しながら支援している	献立は、管理栄養士が利用者の嗜好を考慮しながら、栄養のバランスを考えて作成しています。畑で収穫した野菜も料理に取り入れ喜ばれています。誕生日や敬老会では、特別食を企画し、食事がより豊かになる様に工夫しています。好物の寿司は、出前や外食の回転寿司で楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックを行い水分量の少ない時などは声掛けを行い摂取してもらうよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後や夕食後に口腔ケアを実施し個々に応じた支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はリハビリパンツの使用をやめパッドで対応し一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かしトイレでの排泄を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握しています。夜間もオムツに頼らずにポータブルトイレを使用し、自立に向けた支援に努めています。日中もほとんどの利用者は自立していて、尊厳に配慮した声かけを行い、トイレでの排泄を大切にされた支援に取り組んでいます。衛生用品の使用も個々に対応しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や腹部マッサージ、水分を多めに摂取してもらうなど予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが本人の体調や都合に合わせて入浴してもらうよう支援している	週2回以上を目途に入浴支援を行っています。入浴を拒む利用者には、無理強いせず、言葉かけやタイミングを工夫しています。3方向から介助出来る浴室も設置され、2人介助対応で安心して繋がっています。シャワー浴で衛生保持にも努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思や体調に合わせて安心何楽な休息が出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後、一人ずつ服薬し飲み込むまで確認し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は塗り薬やパズル、簡単な教材を利用したり洗濯物たたみや食器拭き等のお手伝いをしてもらうよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば出来るだけ出掛けられるよう支援している	季節に応じた年間計画を立て、花見、石屋製菓見学、紅葉狩り、外食等、外出支援に取り組んでいます。個別には買い物に出かけたり、日常では、車椅子でもテラスに出て外気に触れたり、散歩に出る等、五感の刺激に取り組んでいます。農園での収穫や野菜の成長を愛でるのも楽しみの一つになっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じてお金を所持したり、また、お祭りなどのイベント時に使えるよう支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話を掛けたり、また、家族からの電話の取り次ぎも出来るよう支援している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は住環境に沿って作られており、不快や混乱さがないよう配慮している。また、リビング内や居室にはその時の季節感を取り入れたり、絵を飾ったりと工夫している	広々と開放感の有るリビングでは、定期的には大衆演劇やコンサート、フラダンス等の催しがあり、利用者を楽しませています。バリアフリーで、回廊式スタイルは動きやすく、見守りやすい設計になっています。リビングのベランダから見える、牧歌的な風景は季節の変化が楽しめ、食卓テーブルにソファが配置され、憩いの場となっております。全体的にゆったりとした設計は、居心地良く寛げる空間となっております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は居室へ、TVを視聴したい時はソファへ、塗り絵やカルタ、歌唱とみんなを楽しむ時は食卓へと思い思いに過ごせるよう日々暮らしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや好みのものを活かし家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう工夫している	居室にはクローゼットが設置され、整理整頓し易く、窓からの陽射しはとても明るく温かみを感じます。利用者は使い慣れた家具やベット、整理タンス、テレビ、生活必需品等を持ち込み、居心地良く過ごす工夫をしています。家族写真や絵等も飾り、安らげる環境を整えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を理解し会議等で話し合い、自立した生活が送れるよう日々工夫している			